

平成 22 年 11 月 27 日

明日香村教育委員会

明日香村発掘調査報告会

2010

開 会 1:00~

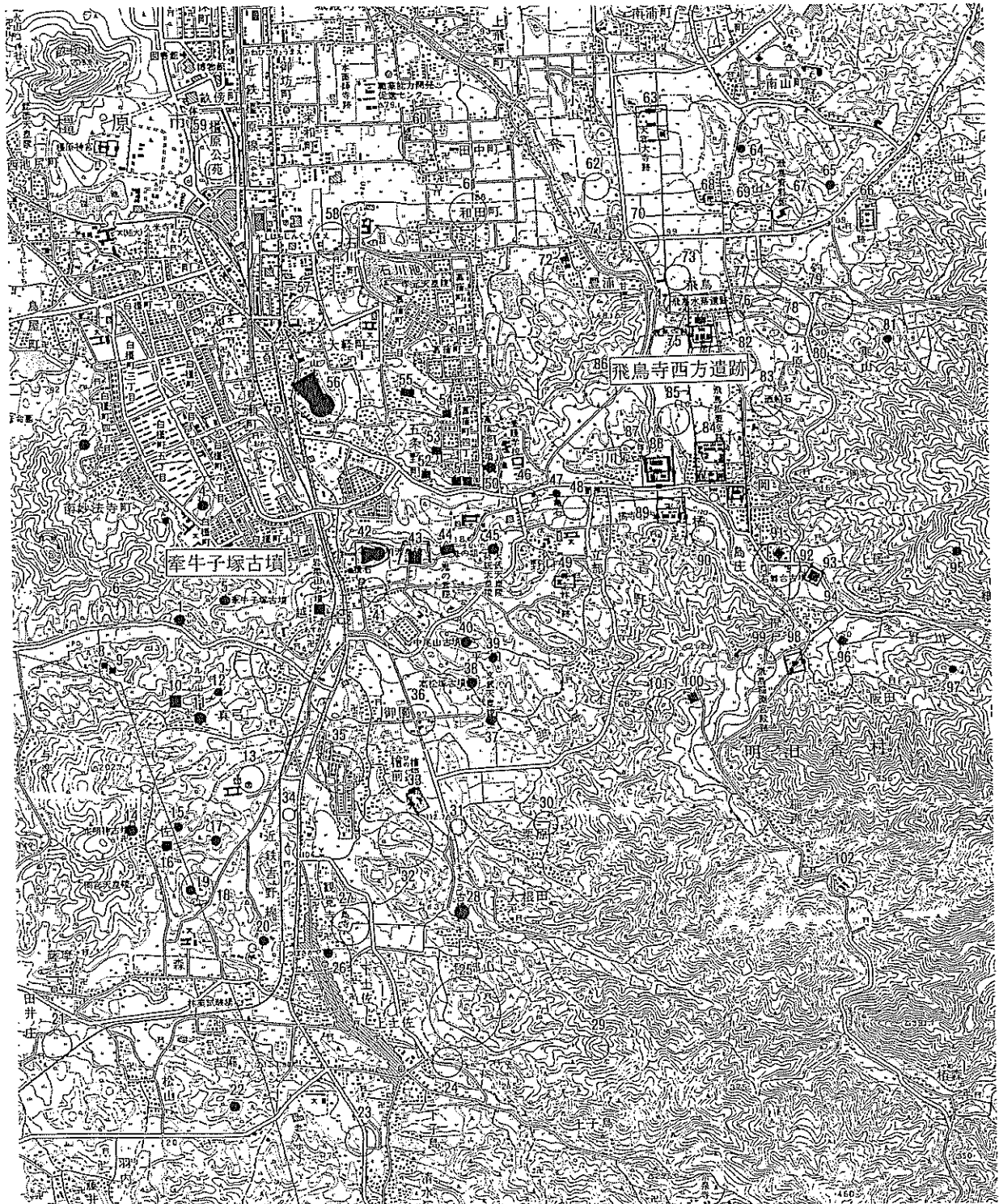
調査報告 1:10~

「飛鳥寺西方遺跡の調査」 長谷川透

「牽牛子塚古墳の調査」 西光慎治



(牽牛子塚古墳・全景)



1. 真弓鍾子塚古墳 2. 小谷古墳 3. 益田岩船 4. 沼山古墳 5. 牽牛子塚古墳 6. 与楽古墳群 7. 岩屋山古墳 8. スズミ1号墳
9. スズミ2号墳 10. カツマヤマ古墳 11. マルコ山古墳 12. 真弓テラノマエ古墳 13. 佐田遺跡群 14. 東明神古墳 15. 佐田2号墳
16. 佐田1号墳 17. 出口山古墳 18. 森カシタニ遺跡 19. 森カシタニ塚古墳 20. 向山1号墳 21. 薩摩遺跡 22. 松山呑谷古墳 23. 清水谷遺跡
24. ホラント遺跡 25. 阿部山遺跡群 26. 稲村山古墳 27. 観覚寺遺跡 28. キトラ古墳 29. 阿部山廃寺 30. 呉原寺跡 31. 捨隈門田遺跡
32. 捨前遺跡群 33. 捨隈寺跡 34. 坂ノ山古墳群 35. 捨前上山遺跡 36. 御園チシアイ遺跡・御園アライ遺跡 37. 塚穴古墳 38. 高松塚古墳
39. 火振山古墳 40. 中尾山古墳 41. 平田キタガワ遺跡 42. 梅山古墳 43. カナヅカ古墳 44. 鬼ノ組・雪隠古墳 45. 野口王墓古墳
46. 川原下ノ茶屋遺跡 47. 亀石 48. 西橋遺跡 49. 定林寺 50. 菖蒲池古墳 51. 五条野宮ヶ原1・2号墳 52. 五条野向イ古墳 53. 五条野城脇古墳
54. 五条野内垣内古墳 55. 榑山古墳 56. 五条野丸山古墳 57. 軽寺跡 58. 石川精舎 59. 櫻原遺跡 60. 田中廃寺 61. 和田廃寺 62. 雷丘北方遺跡
63. 大官大寺跡 64. カモヤ塚古墳 65. 庚申塚古墳 66. 山田寺跡 67. 上ノ井手遺跡 68. 奥山久米寺跡 69. 奥山リウゲ遺跡 70. 雷丘東方遺跡
71. 雷丘 72. 豊浦寺跡 73. 石神遺跡 74. 飛鳥水落遺跡 75. 飛鳥寺跡 76. 飛鳥東垣内遺跡 77. 竹田遺跡 78. 小原宮ノウシロ遺跡
79. 八約・東山古墳群 80. 東山マキド遺跡 81. 金鳥塚古墳 82. 飛鳥池工房遺跡 83. 酒船石遺跡 84. 飛鳥京跡 85. 飛鳥京跡死池遺構
86. 甘樫丘東麓遺跡 87. 川原寺裏山遺跡 88. 川原寺跡 89. 橋寺跡 90. 東橋遺跡 91. 鳥庄遺跡 92. 石舞台1~4号墳 93. 石舞台古墳
94. 馬場頭古墳群 95. 打上古墳 96. 都塚古墳 97. 或成組田古墳 98. 坂田寺跡 99. 飛鳥稲瀬宮殿跡 100. 塚本古墳 101. 朝風廃寺
102. 稲瀬ムガダ遺跡

飛鳥地域周辺遺跡分布図 (1:25000)

飛鳥寺西方遺跡の調査

明日香村教育委員会

調査地：奈良県高市郡明日香村大字飛鳥

調査原因：範囲確認調査

調査面積：約 121 m²

調査期間：2010年2月2日～3月31日

1. はじめに

この調査は、史料に残る「飛鳥寺西」の範囲と状況を把握することを目的とした範囲確認調査である。調査地は、「入鹿の首塚」から南へ約 70m、飛鳥寺中金堂跡(現：安居院本堂)から南西へ約 120m、飛鳥寺伽藍の西南隅、飛鳥寺西方地域の一郭にあたる。

飛鳥寺西方地域は、『日本書紀』において「法興寺槻樹之下」や「飛鳥寺西槻」として登場する。大化の改新前夜、中大兄皇子と中臣鎌足が蹴鞠を通じて出会った場所として、時には壬申の乱時の駐屯地、その他、服属儀礼のための饗宴の場としてあらわれる。このように、この地域は、蹴鞠などを行えるだけの大きい空間“槻樹の広場”が広がっていたことが文献史料から推測されるのである。

飛鳥寺西方地域は、これまでに奈良文化財研究所や奈良県立橿原考古学研究所、明日香村教育委員会によって発掘調査が行われてきた。1956・57年に奈良国立文化財研究所による西門の調査(『飛鳥寺発掘調査報告』)、西門の外(西)側では、1984年度K地点調査と1996-1次調査(『奈良国立文化財研究所年報 1997-II』)がある。また首塚から南にかけては、1966年に橿原考古学研究所が飛鳥京跡第11次調査をおこなっている(『飛鳥京跡II』)。

今回の調査区は、1区は3×13.5m、2区は5×10m、3区は2×15mと設定し、調査総面積約121 m²である。

2. 検出遺構と出土遺物

【1区】

検出遺構は、石組溝、土管暗渠、柱穴、バラス敷がある。

石組溝

調査区の東にある石組溝(SD6685)。幅約1.2m、深さ15cm。側石は多くが抜き取られるが、長さ約60cmの側石が一部残る。溝底には拳大の河原石を敷く。石組溝の西側には、砂礫を多く含む溝(SD739)があり、石組溝の西側石を東肩とする。SD739は石組み溝より新しく、奈良時代以降である。

土管暗渠

直径約 20 cmの瓦製土管を連結した暗渠遺構(SX740)。暗渠掘形は、幅 1.6m、深さ約 1 mで、断面形が方形である。掘形埋土には黄褐色山土や礫を含み、土管設置後に人為的に埋め立てられたとわかる。1996-1 次調査時で検出した土管がほぼ正方位に並ぶのに対し、今回検出した土管は、南に見てやや東に斜行する。おそらく、調査地の北側付近で東に斜行すると考えられる。

柱穴

石組溝の西に接した位置にあって、SD739 の底で検出した。掘形は 50～70 cmの不整形で、埋土は黄褐色の山土である。南北柱塀 SA738 の柱抜取痕跡の可能性もある。この遺構の西側約 2 mにも柱穴状の遺構がある。

バラス敷

整地土上面に敷かれたバラス敷である。5～10 cm大の川原石を敷く。後述する 2 区のバラス敷きと一連であろう。

【2区】

検出遺構は、敷石遺構、バラス敷がある。

敷石遺構

幅 5.2mの敷石遺構(SH6682)の南延長部分である。10～20 cmの拳大の河原石を敷き詰めており、西辺と南辺は見切り石の辺をそろえる。東辺は残存状態が悪く抜き取られる。南辺見切り石の南には、並行する幅約 30 cmの溝状の見切り石がある。

バラス敷

前述した敷石遺構の西側には 5～10 cm大のバラス敷が広がる。敷石遺構の西側は良好に遺存するが東側の残りはよくない。1 区のバラス敷と一連と推測される。

【3区】

検出遺構はバラス敷がある。

バラス敷は、調査区中央では比較的遺存している。バラス敷の下層には古墳時代の遺物包含層あり、さらにその下層は氾濫源である礫層がひろがる。

3・まとめ

調査の結果、飛鳥寺西方域で、飛鳥時代の石組溝、土管暗渠、敷石遺構、バラス敷、柱穴を検出した。これらの遺構は、飛鳥寺の西側における既往の調査で確認されていた遺構と一連の遺構であることから、土管暗渠が南北に 160m以上、石組溝が 110m以上、敷石遺構が約 70mにわたって展開することが明らかとなった。このように、飛鳥寺西側一帯は、南北にわたって人工的に整備されていた状況が窺い知れる。今回の調査によって、この調査地が槻樹の広場の一部に相当するとの確証は得られなかったものの、飛鳥寺西方の土地利用の状況を考える良好な資料が得られた。今後の調査の進展によって飛鳥寺西の性格解明が期待される。

※※※飛鳥寺西に関する史料（『日本書紀』）※※※

- ・皇極三年（644）正月乙亥朔条

中臣鎌子連、（中略）便付心於中大兄、疏燃未獲展其幽抱、偶預中大兄於法興寺槻樹下打毬之侶、而候皮鞋隨毬脱落、取置掌中、前跪恭奉、中大兄、對跪敬執、自茲、相善、俱述所懷、既無所匿（後略）

- ・孝德即位前紀大化元年（645）六月乙卯条

天皇、皇祖母尊、皇太子、於大槻樹之下、召集群臣、盟曰（後略）

- ・天武元年（672）六月己丑条

爰留守司高坂王、乃興兵使者穗積臣百足等、據飛鳥寺西槻下為營、唯百足居小墾田兵庫、運兵於近江、時營中軍衆、聞熊叫声、悉散走、仍大伴連吹負（中略）乃奉高市皇子之命、喚穗積臣百足於小墾田兵庫、爰百足乘馬緩來、逮于飛鳥寺西槻下、有人曰、下馬也、時百足下馬遲之、便取其襟以引墮、射中一箭、因拔刀斬而殺之、（後略）

- ・天武六年（677）二月条

是月、饜多禰嶋人等於飛鳥寺西槻下、（後略）

- ・天武九年（680）七月甲戌朔条

飛鳥寺西槻枝、自折而落之、（後略）

- ・天武十年（681）九月庚戌条

饜多禰嶋人等于飛鳥寺西河邊、奏種々樂、（後略）

- ・天武十一年（682）七月戊午条

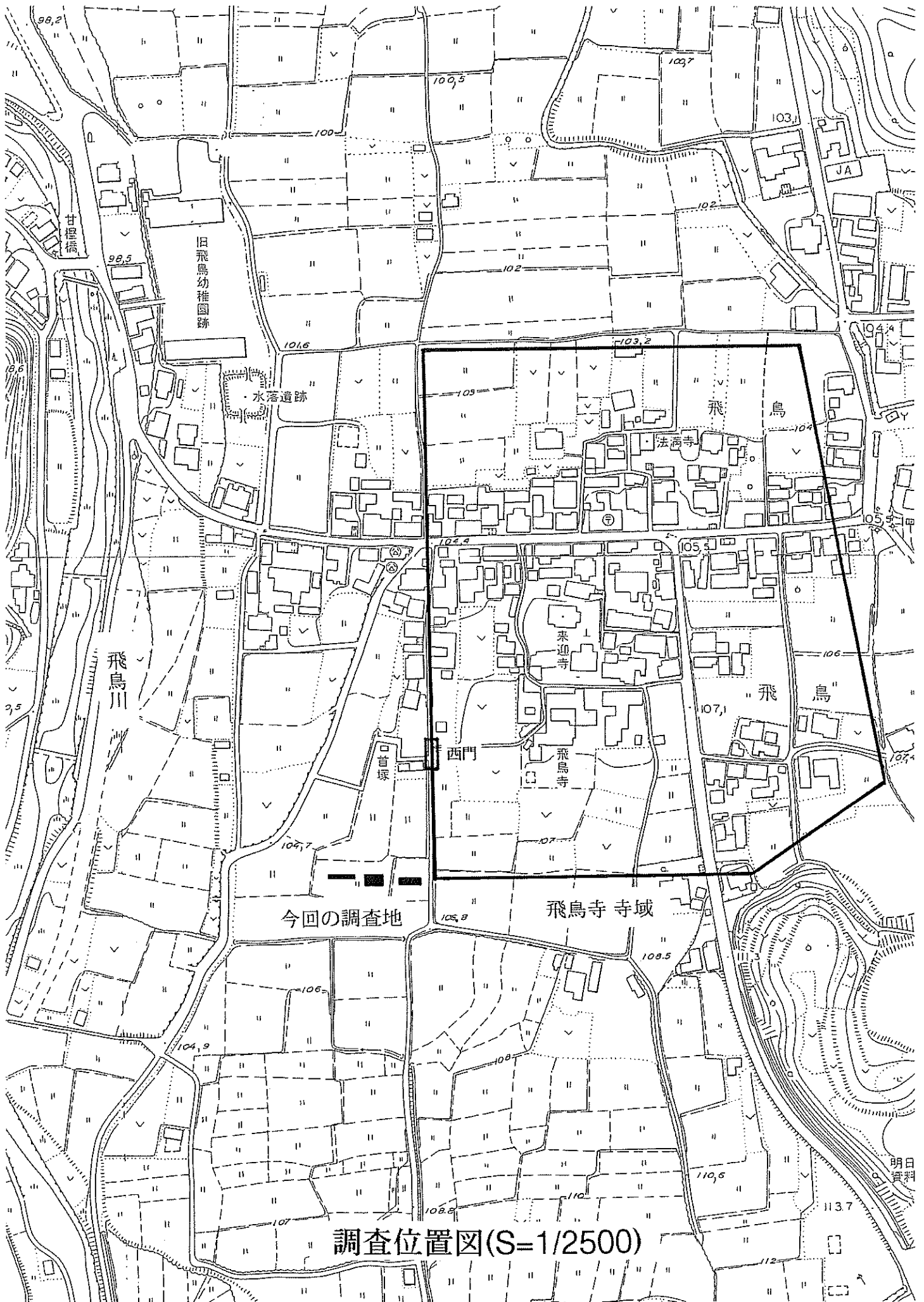
饜隼人等於明日香寺之西、發種々樂、仍賜祿各有差、道俗悉見之、（後略）

- ・持統二年（688）十二月丙申条

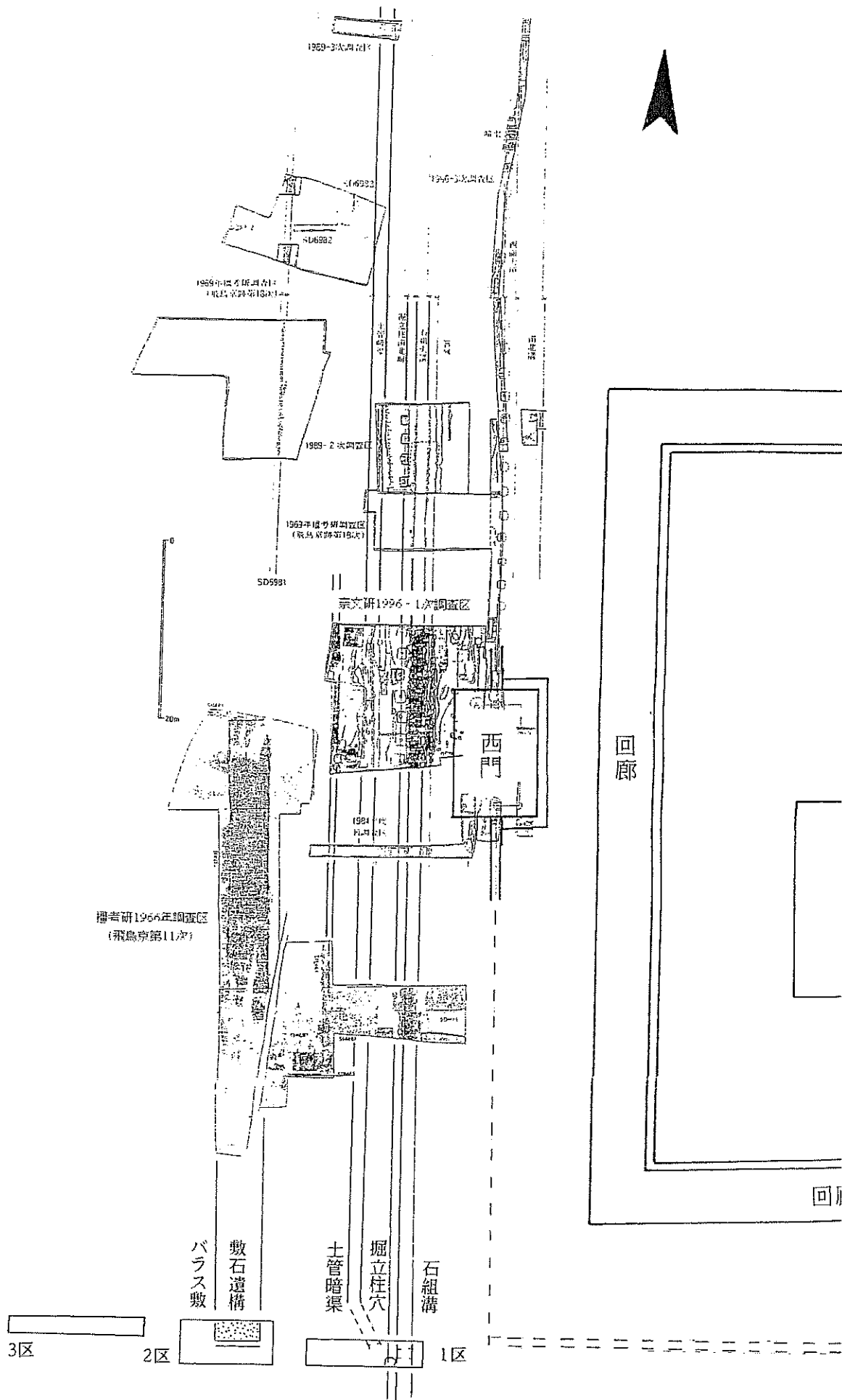
饜蝦夷男女二百一十三人於飛鳥寺西槻下、仍授冠位、賜物各有差、（後略）

- ・持統九年（695）五月丁卯条

觀隼人相撲於西槻下、（後略）

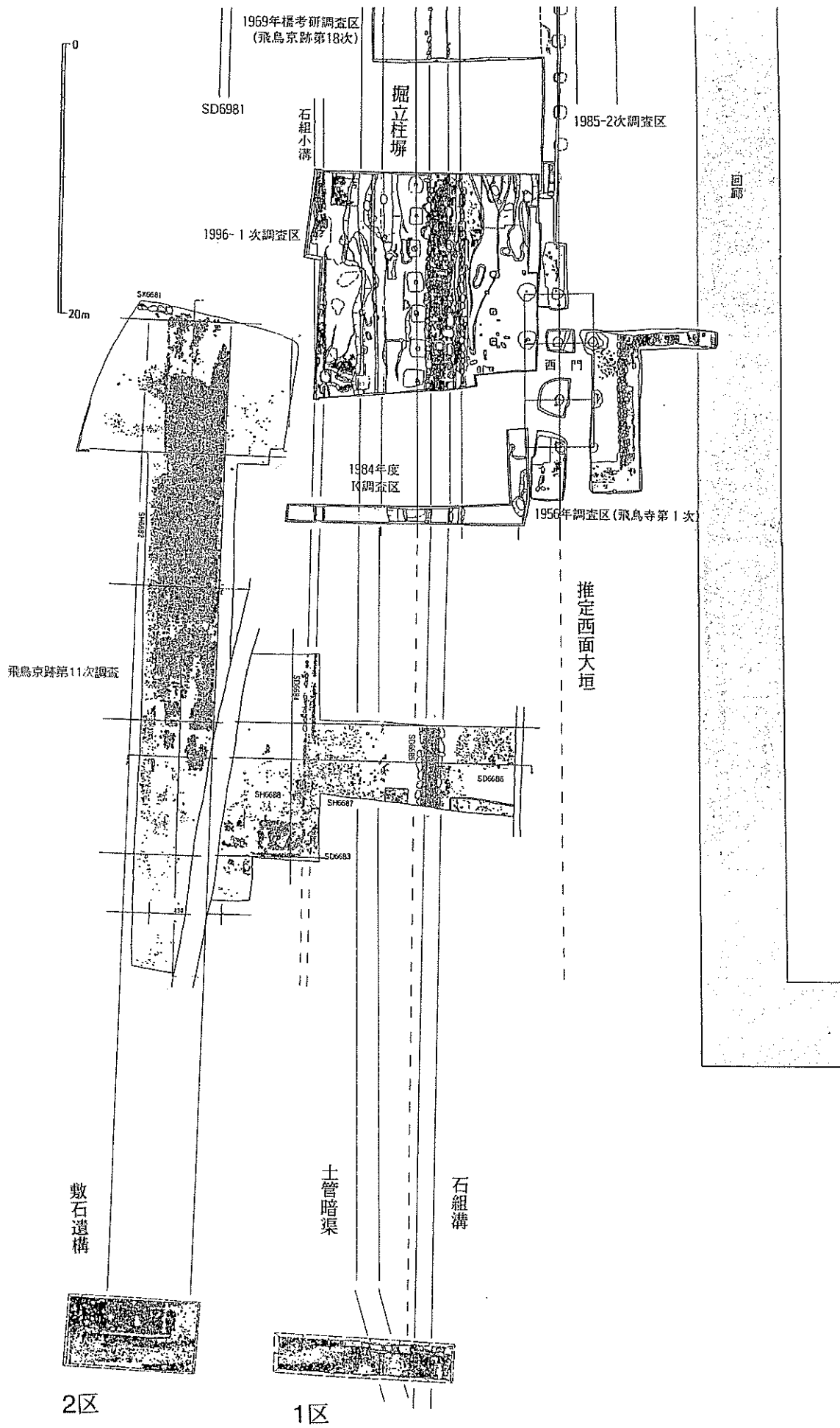


調査位置図(S=1/2500)

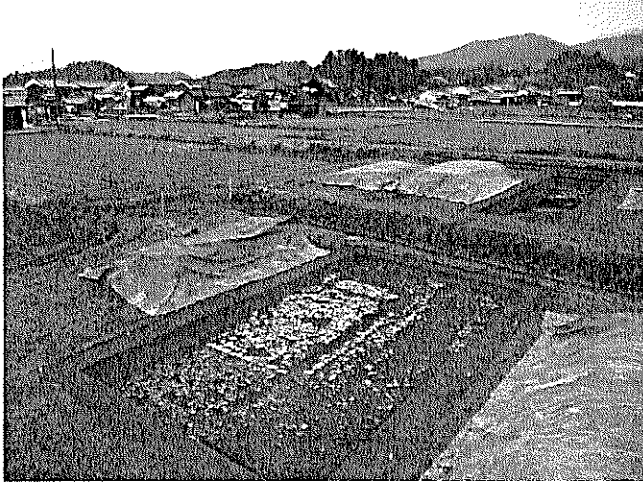


今回の調査区

飛鳥寺西側周辺の遺構図(S1/600)



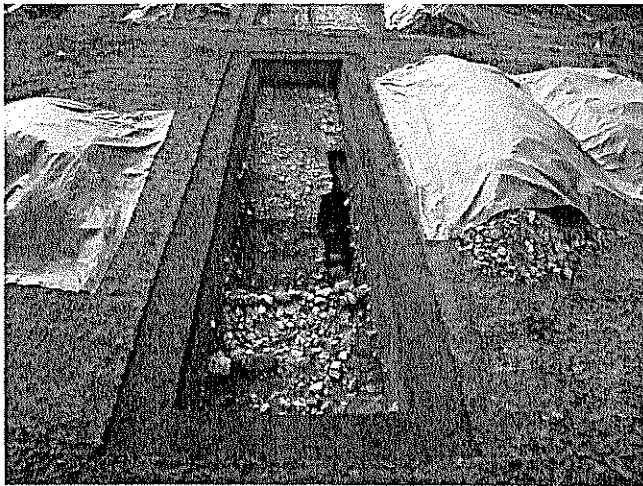
遺構配置図 (S=1/400) 不許転載



飛鳥寺を望む(南西から)



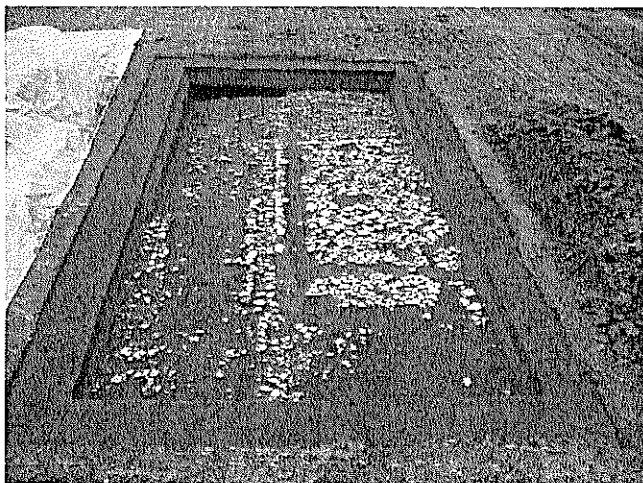
入鹿の首塚を望む(南から)



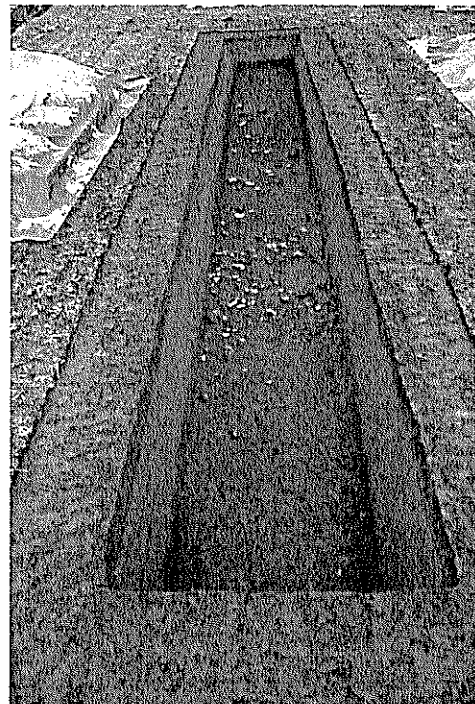
1区 全景(東から)



1区 土管と掘形(南から)



2区 全景(東から)



3区 全景(西から)

牽牛子塚古墳の調査

明日香村教育委員会

調査地：奈良県高市郡明日香村大字越小字御前ノ塚 189 番地他

調査原因：範囲確認調査

調査面積：約 200 m²

調査期間：2009 年 9 月 1 日～現在継続中

1. はじめに

牽牛子塚古墳は「真弓崗・越智崗」と呼ばれる一角に所在する終末期古墳である。周辺には岩屋山古墳をはじめ真弓罐子塚古墳やマルコ山古墳、カツマヤマ古墳など多くの後・終末期古墳が点在している。牽牛子塚古墳については北浦定政の「松の落ち葉」(1856)の中で「越村二ケンゴウシと申亦朝顔と申由」と記されており、江戸時代には「ケンゴウシ」と呼ばれていたことがわかる。明治時代には『大和國古墳墓取調書』が著され、その中で石槨が開口した様子が描かれており、明治時代には現況に近い状況であったことが窺える。大正元年には佐藤小吉によって調査が行われ、更に大正3年には阪合村役場が保存工事を行っている。この際、七宝飾金具をはじめ玉類・夾紵棺片・人骨などが出土している。昭和52年には環境整備事業に伴って石槨前面が調査され、コロレールや版築土が確認されている。今回の調査は牽牛子塚古墳の構造解明に向けた範囲確認調査を平成21年度より実施している。

2. 検出遺構と出土遺物

【墳丘と外部施設】

墳丘は越峠から東西に続く尾根から更に舌状にのびた丘陵上に位置している。墳丘は版築で築かれた対辺約22m、高さ4.5m以上を測る八角形墳である。墳丘基底は花崗岩風化土の地山面を八角形に削り出し、裾部には幅約1m、深さ約0.2mの溝を掘り、その中に凝灰岩切石を溝内の両端に並べ、その間に更に凝灰岩切石を挟み込み平面が「H状」を呈した犬走り状の石敷きがある。この石敷きの一部は中世の石取りにより失われている。石敷きの更に外側には二重のバラス敷きが施されている。バラス敷きは石敷きに沿って敷設されており、凝灰岩石敷きから約1mの所には墳丘裾部と同じ方向に沿って仕切り石がある。この仕切り石を境にして外側は約0.1m程度低くなっている。バラス敷きは調査区外に更にのびており、現状で凝灰岩石敷きから約3.6m分確認できる。墳丘背後には花崗岩風化土の地山面の裾部と凝灰岩石敷き・バラス敷きの間には長辺約0.6m程度の花崗岩の抜き取り痕を確認している。この痕跡は

墳丘背後の花崗岩風化土の背面カットに沿って長さ 19m にわたって検出していることから、地山面の法面処理に花崗岩が使用されていたものと考えられる。

【埋葬施設】

埋葬施設は二上山の凝灰岩の切石を使用した南に開口する刳り貫き式横口式石槨である。石槨内の中央には間仕切りがあり、それを境に二つの埋葬空間がある。床面には長さ約 1.9m、幅約 0.8m、高さ約 0.1m の二つの棺台が設けられている。天井部は平天井ではなく、ドーム状を呈している。開口部には長辺約 1.45m、短辺約 1.15m、厚さ 0.3m の凝灰岩の閉塞石(内扉)がある。表面の四隅には方形の孔が穿たれており、扉金具が設けられていたと考えられる。この閉塞石の更に南側には長辺約 2.7m、短辺 2.45m、厚さ約 0.63m の石英安山岩の閉塞石(外扉)がある。この閉塞石の左右には二段に積まれた石英安山岩の切石がある。この石材は墳丘北西部に露出していた石英安山岩と対を成すもので、石槨を構成する凝灰岩の周囲を直方体の石英安山岩の切石が取り囲んでいる。石材については高さを調節するため、一石から数石の切石を積み重ねて構成されている。石槨の凝灰岩と石英安山岩の切石が接する箇所には漆喰が充填されている。

【出土遺物】

夾紵棺・黒色土器・瓦器・羽釜・凝灰岩など少量出土している。

3.まとめ

今回の調査では牽牛子塚古墳が八角形墳であることが明らかとなった。以下、今回の調査成果をまとめると、①牽牛子塚古墳は舌状にのびた丘陵上に版築で築かれた対辺約 22m の八角形墳で、二重のバラス敷きの範囲を含めると 32m 以上の規模を測る。②墳丘裾部には二上山の凝灰岩切石やバラスを敷き詰め、墳丘部も出土した短辺を斜めに加工した凝灰岩から墳丘表面を装飾していたものと考えられる。③埋葬施設については石槨を構成する凝灰岩と周囲にある石英安山岩の切石とが高さが揃うように一石から数石、積み上げられ囲繞していたと推定される。④石槨凝灰岩の形状については方形を呈していると考えられ、更に石槨凝灰岩と石英安山石の接する箇所には漆喰が充填されている。

このように、今回の成果は牽牛子塚古墳を解明する上で多くのデータを提供しており、今後、飛鳥地域の終末期古墳を考える上でも重要な成果となるであろう。

聞取

長吏

右衛助

一越村二字ケンゴウシ

と申亦朝顔と申由此

所塚二而三十ヶ年程

以前迄ハ東方遁入候穴

有之候處右穴二而非人

共入籠休伯(道)いたし候故

其節方穴ヲ土二而相閉

当時ハ出這入不相成候此塚

裾廻り百間斗高廿七

八間二而頂上十間斗平地

二御座候得共右塚ハ

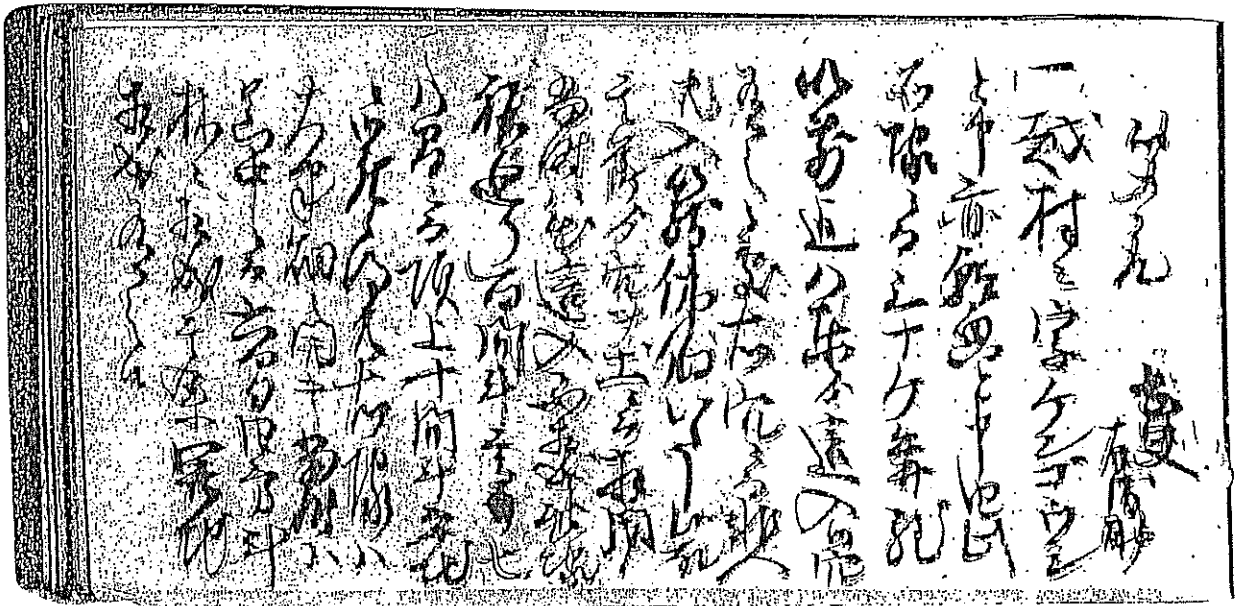
大半畑二開キ当時ハ

真中二而六間四方斗

林二相成其余開地

相成有之候

【童 37】



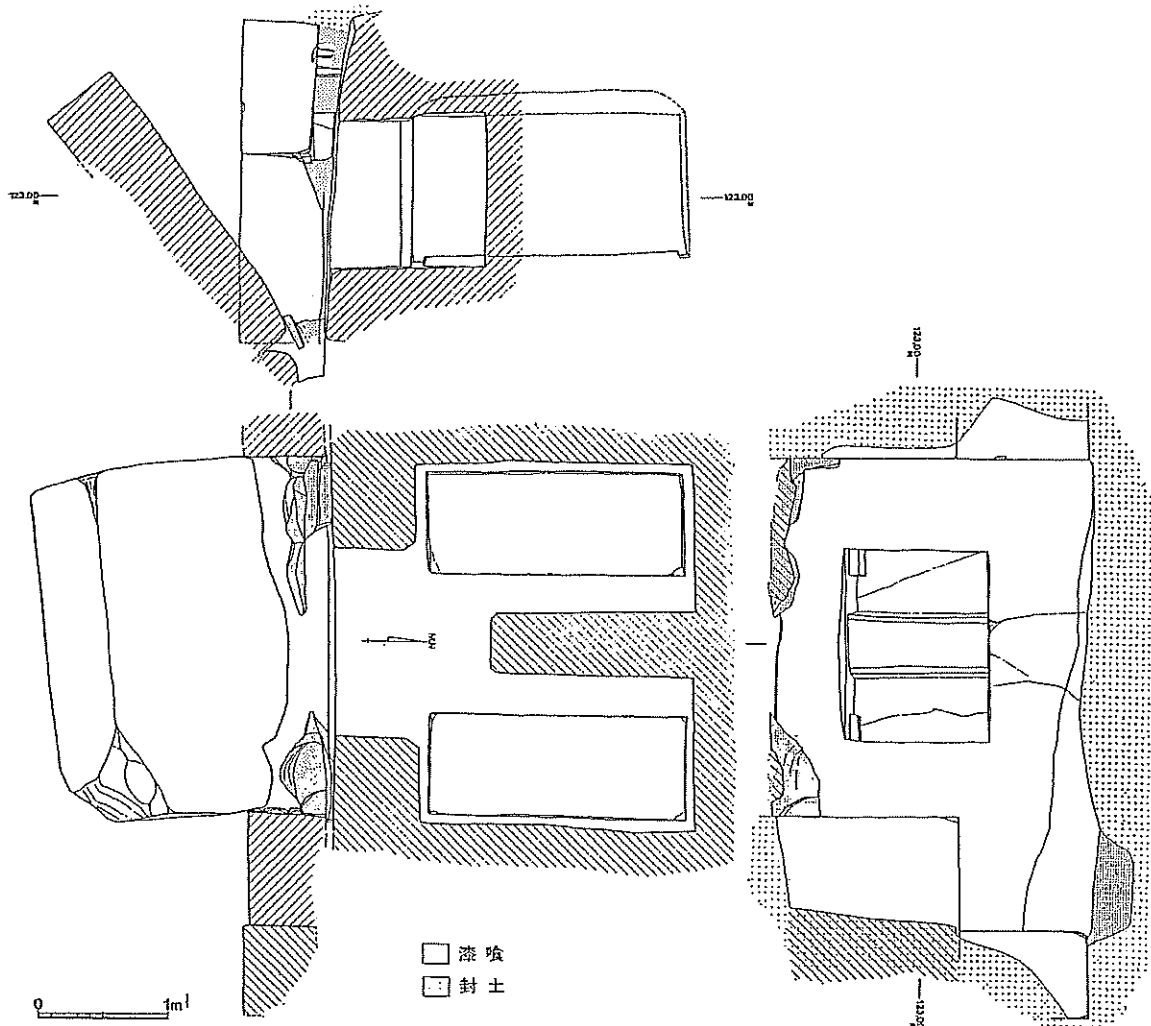
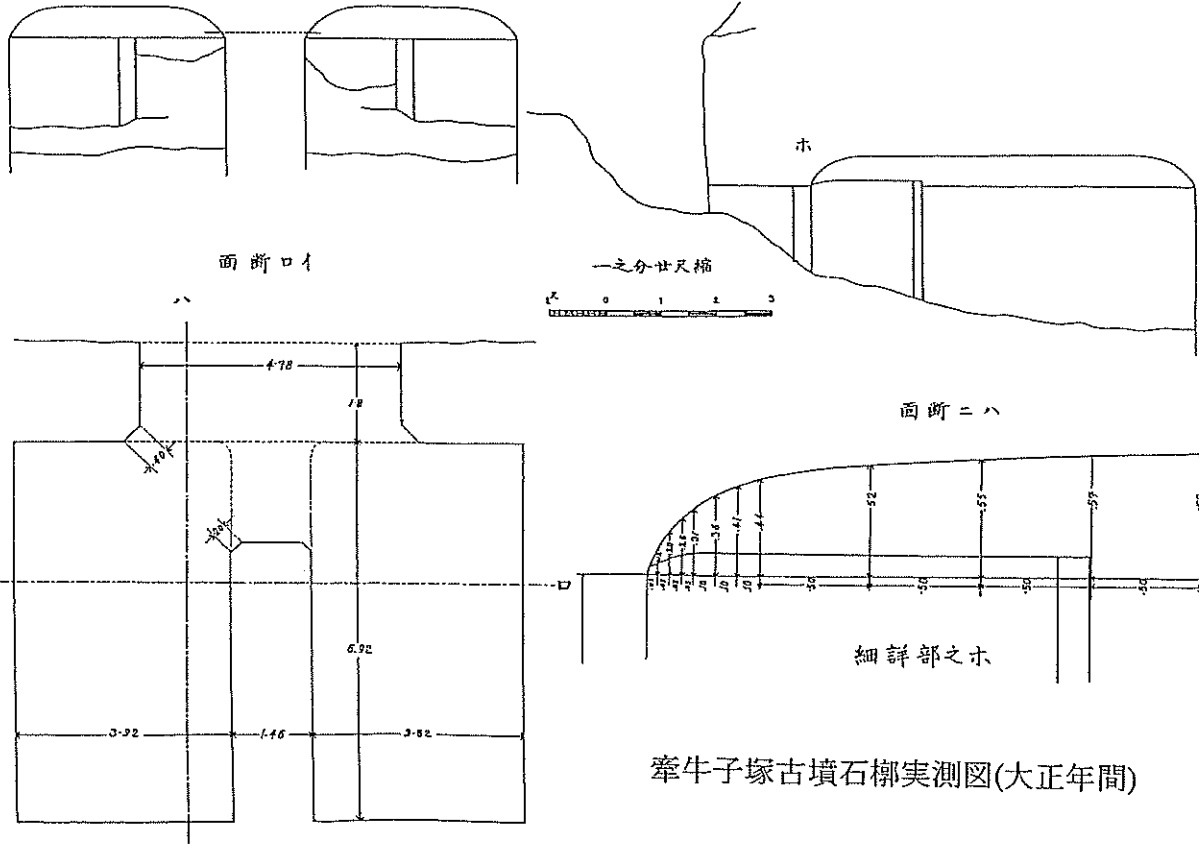
北浦定政『松のおちば』1856

第五圖

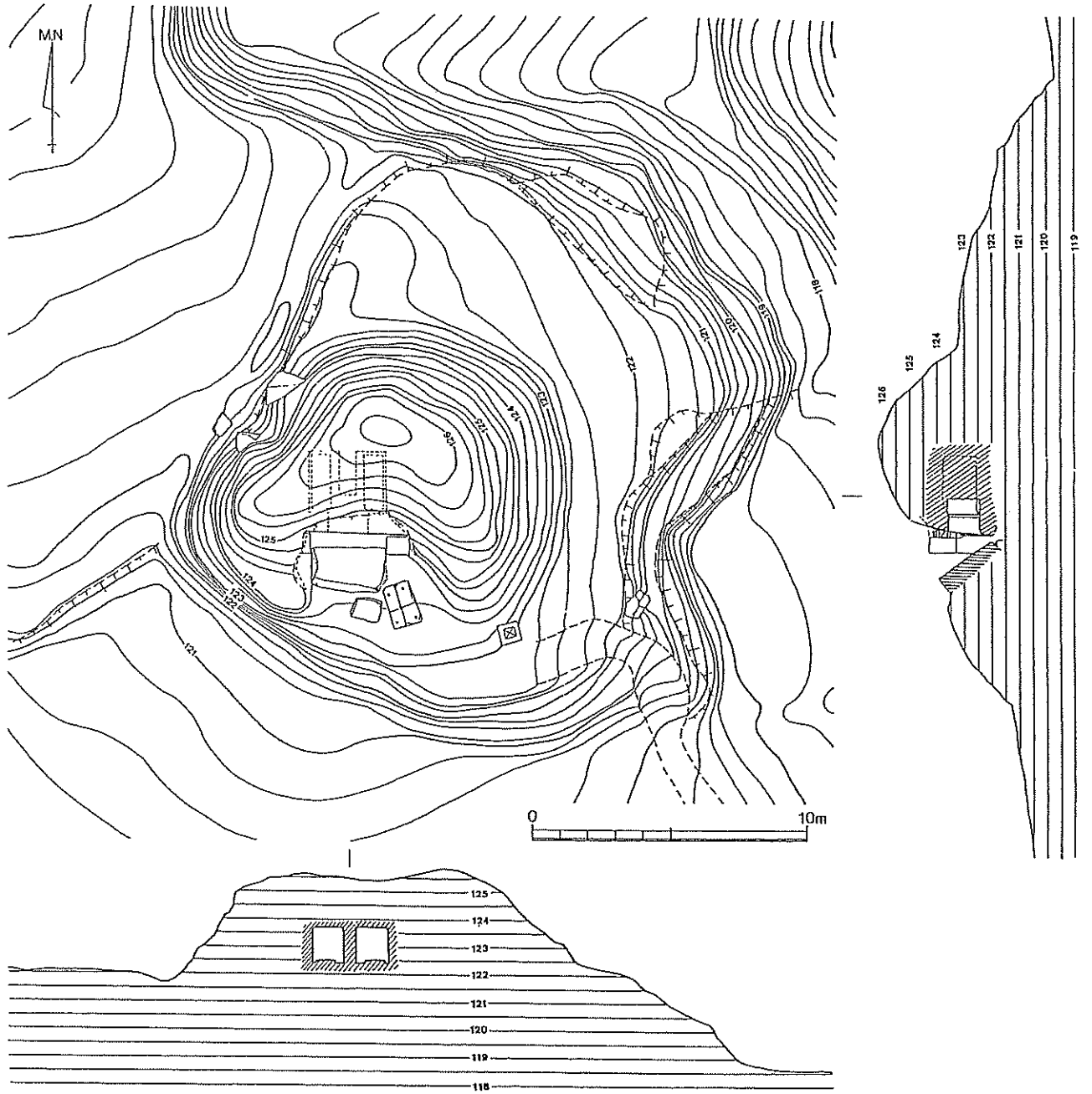
越字大村合坂郡市高縣良奈

圖之塚子午牽

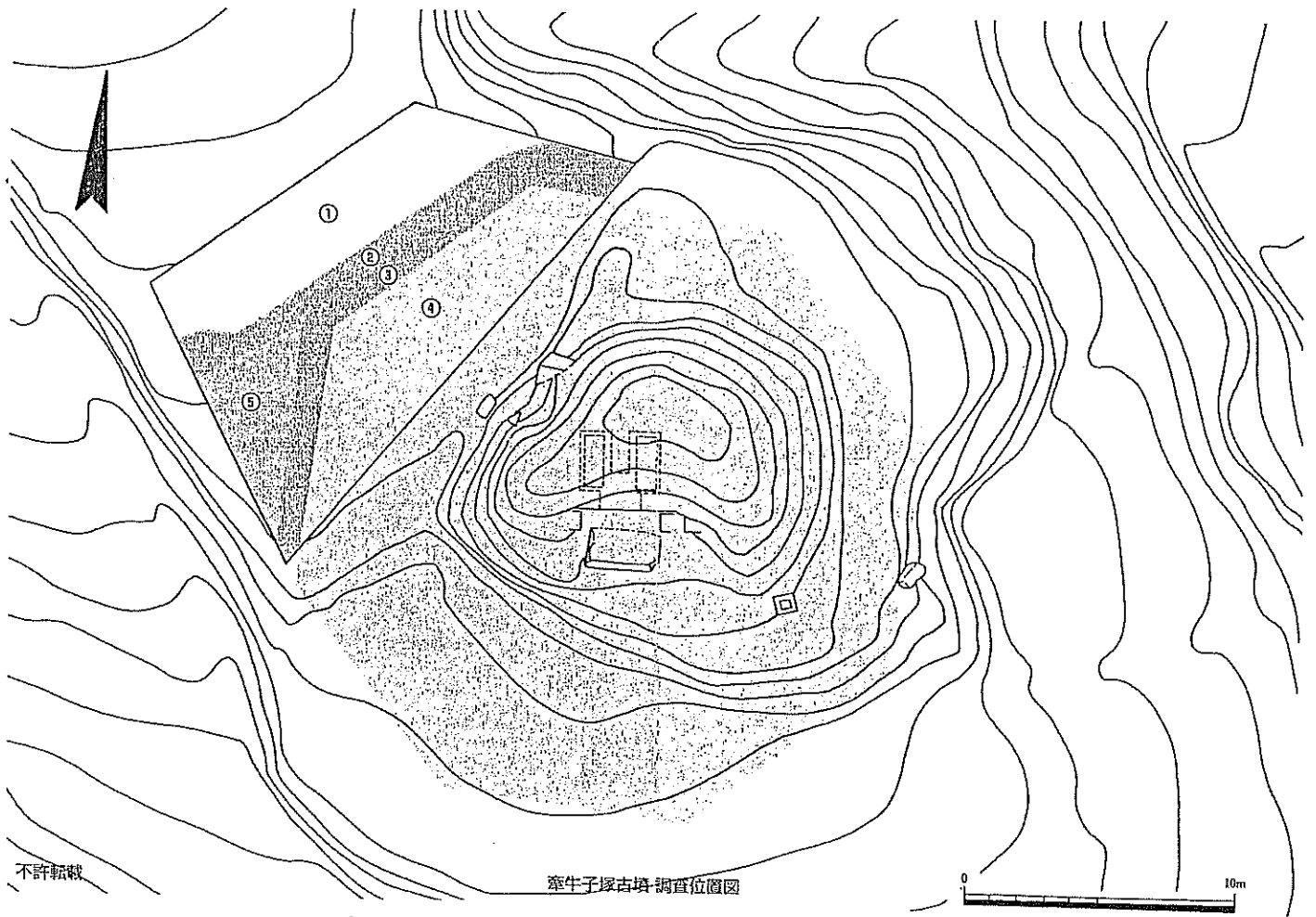
(製氏一俊沼天)



牽牛子塚古墳石槨実測図(昭和52年)

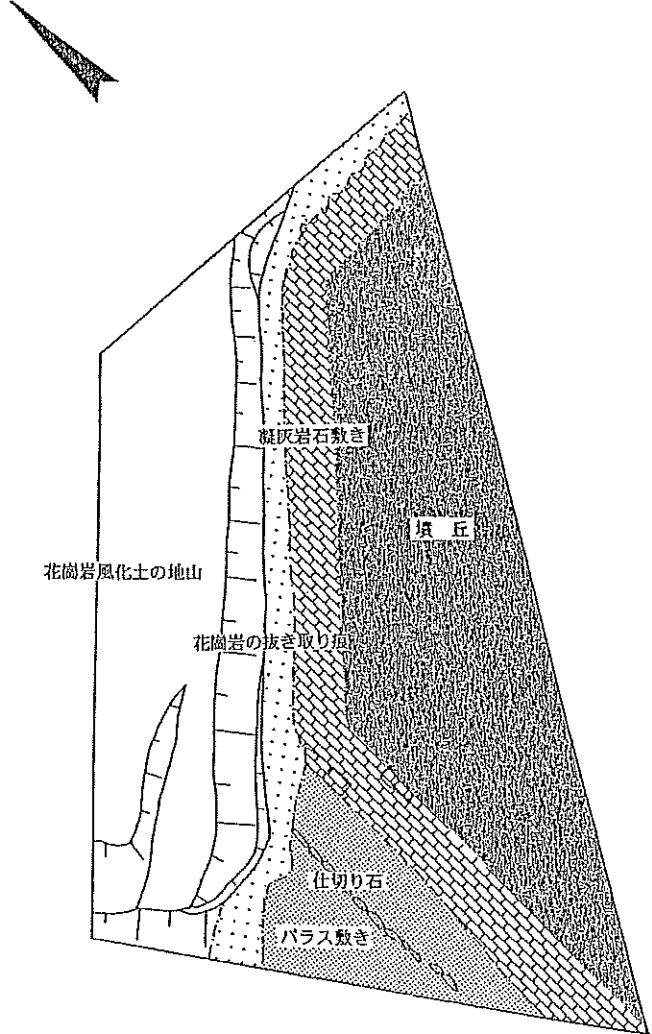


牽牛子塚古墳墳丘測量図



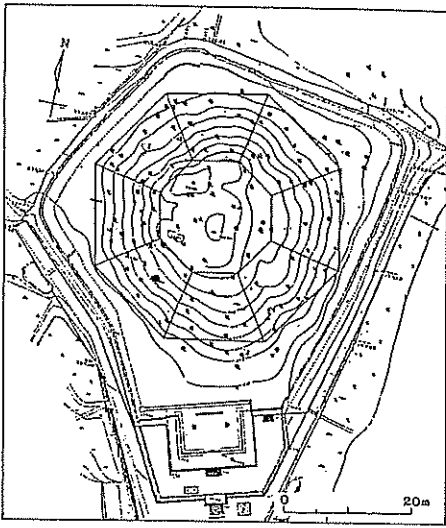
不許転載

牽牛子塚古墳調査位置図

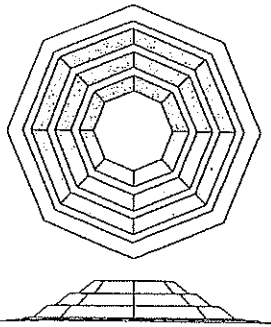


牽牛子塚古墳遺構模式図

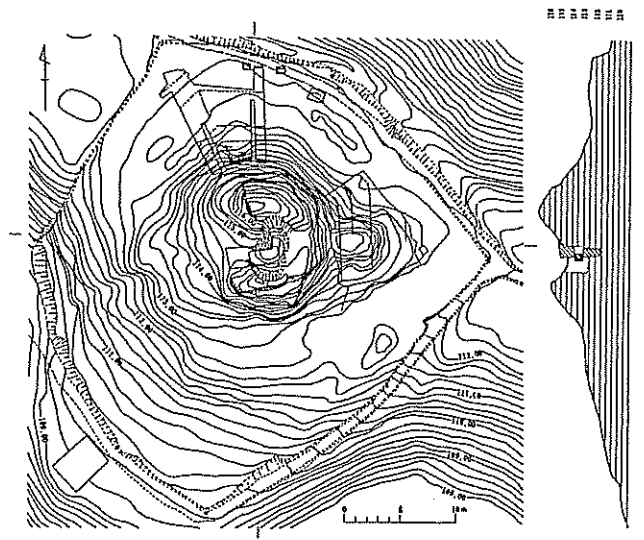
不許転載



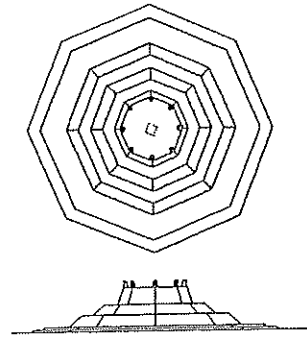
野口王墓古墳填丘測量圖



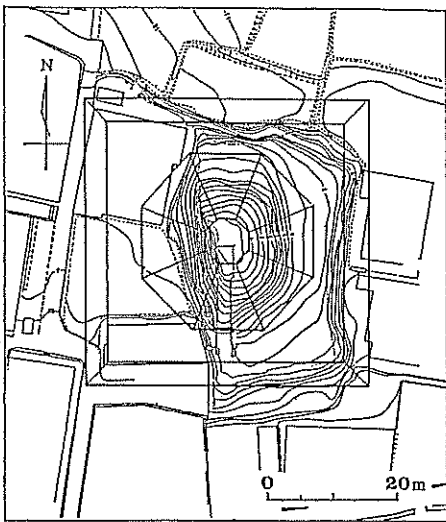
野口王墓古墳填丘復元圖



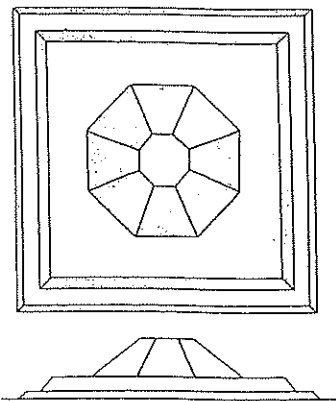
中尾山古墳填丘測量圖



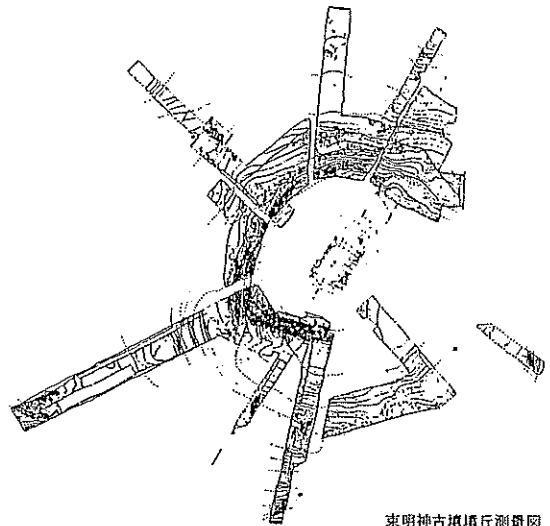
中尾山古墳填丘復元圖



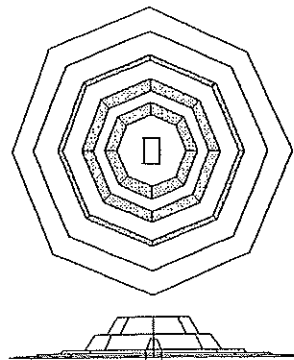
岩屋山古墳填丘測量圖



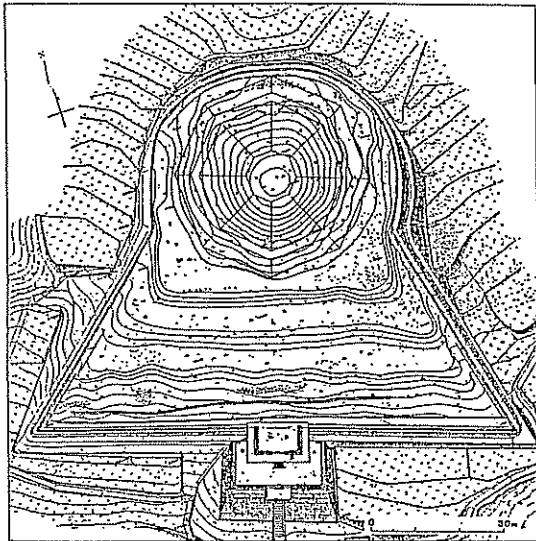
岩屋山古墳填丘復元圖



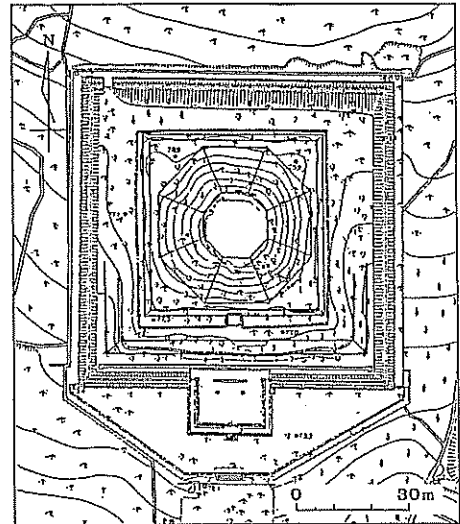
東明神古墳填丘測量圖



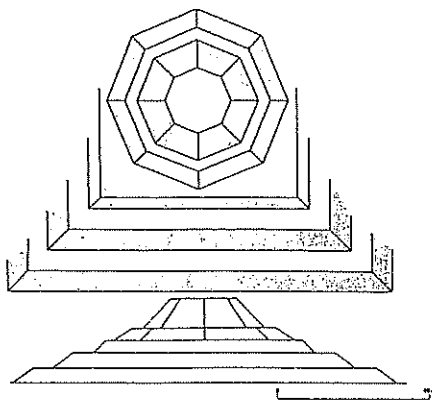
東明神古墳填丘復元圖



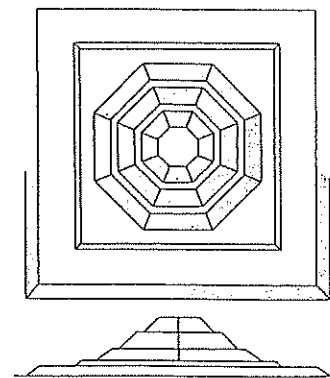
段ノ塚古墳丘測量図



御廟野古墳丘測量図



段ノ塚古墳丘復元図

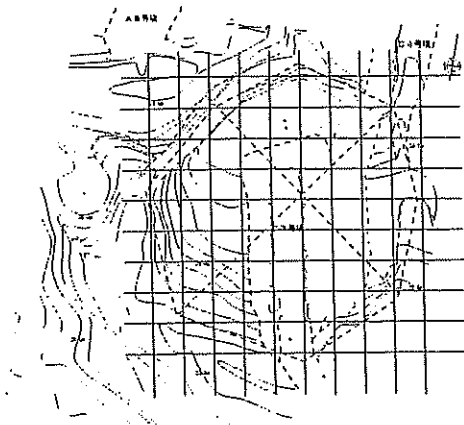


御廟野古墳丘復元図

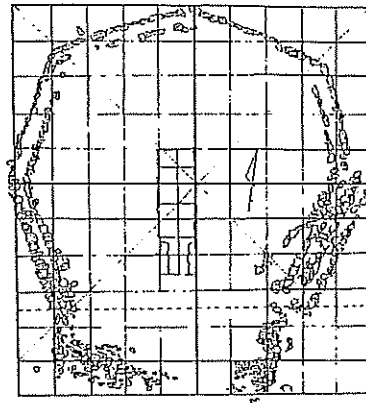
	古墳名	所在地	規模	備考
①	牽牛子塚古墳	明日香村	22m(32m以上)	
②	野口王墓古墳	明日香村	38m	檜隈大内陵(天武・持統天皇陵)治定
③	中尾山古墳	明日香村	19.4m(29.4m)	檜隈安古岡上陵?(文武天皇陵?)
④	束明神古墳	高取町	22.2m(33m)	岡宮天皇陵?
⑤	段ノ塚古墳	桜井市	42m	押坂内陵(舒明天皇陵)治定
⑥	御廟野古墳	京都市	40m	山科陵(天智天皇陵)治定

表1 主な八角形墳一覧表

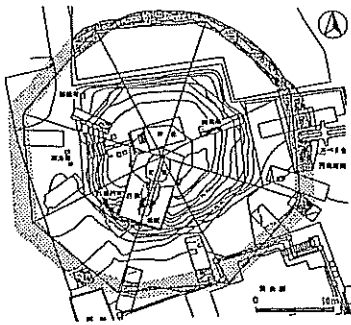
(パラス敷き含む)



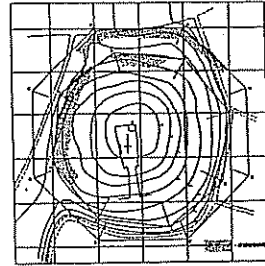
桑原西C3号墳



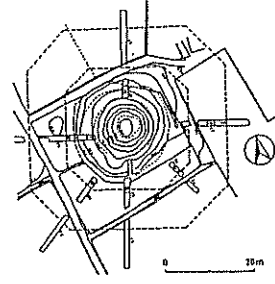
中山莊園古墳



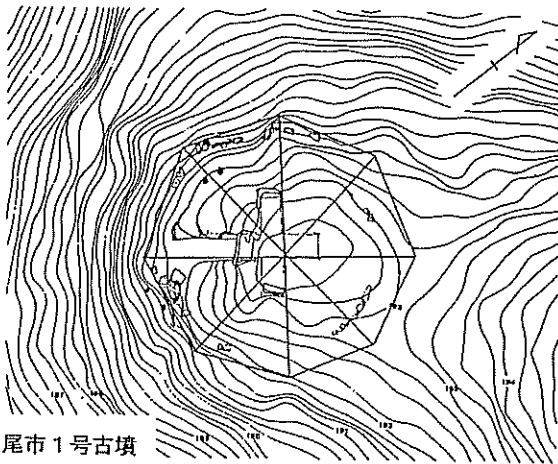
稻荷塚古墳



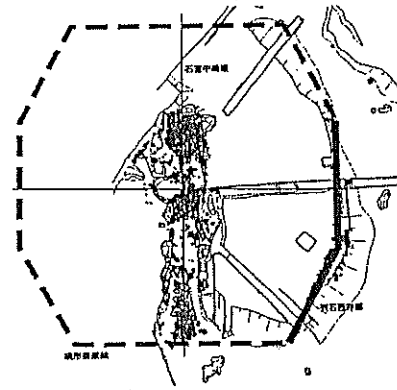
一本杉古墳
(T.S. 112)



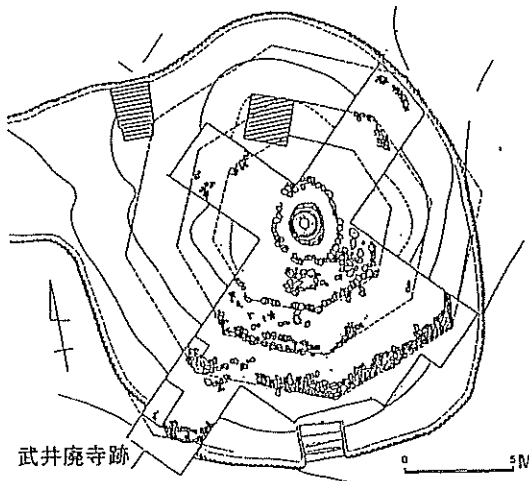
伊勢塚古墳



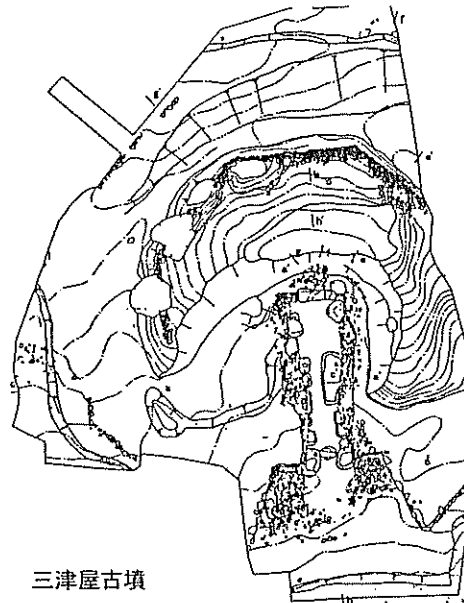
尾市1号古墳



園分45号墳



武井庵寺跡



三津屋古墳

【引用・参考文献】

- 奈良縣 1912『奈良縣史蹟勝地調査會報告書』第一回
- 明日香村教育委員会 1975『史跡中尾山古墳環境整備事業報告書』
- 明日香村教育委員会 1977『史跡 牽牛子塚古墳—環境整備事業に伴う事前調査報告—』
- 白石太一郎 1982「畿内における古墳の終末」『国立歴史民俗博物館研究報告』第1集 国立
歴史民俗博物館
- 河上邦彦編 1999『東明神古墳の研究』高取町文化財調査報告書 第18冊 高取町教育委
員会
- 右島和夫 2001「6世紀後半における多角形円墳の出現とその背景—群馬県地域における八
角形墳の再検討—」『群馬県立歴史博物館紀要』第22号 群馬県立歴史
博物館
- 奈良文化財研究所編 2005『北浦定政関係資料 松の落ち葉二』奈良文化財研究所史料 第
65冊
- 小川裕見子 2009「終末期群集墳内における八角形墳と大型八角形墳の関係について」『古代
学研究』184 古代学研究会

【メ モ】